



北鎌倉台峯トラスト 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

北鎌倉だより

2002年7月 NO 7



台峯に生息する希少なカワトンボ

日々の目の前の景色がやがて歴史になる!

目次

- 第2回特別企画「講演&チャリティ・コンサート」
- 活動・会計報告
- *アカテガニの棲む森は美しく、豊じょうだった
- *赤道整備で市長に要望
- *緑債発行で市長に要望
- 北鎌倉文学散歩 光照寺
- 談話室(会員欄) 夢は娘と一緒に森の手入れのボランティア
- 伝言板



スチビア
トラスト

2002

日々の目前の景色がやがて歴史になる!

—第2回特別企画「講演&チャリティ・コンサート 台峯の命の叫び」—

去る6月2日、NPO法人「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」(なだいなだ理事長)は、北鎌倉女子学園で、「台峯の生命(いのち)の叫び リンボウ先生が語り 青木由有子が歌う」を開催しましたが、用意した500席がほぼ埋まりました。

参加者の反応も上々でした。講演した林望氏とソロコンサートを受け持った青木由有子さんの組み合わせが、とてもしっくりいったようでした。純益442,064円は、台峯緑地保全活動のために使わせていただきます。

この試みに対しては、北鎌倉女子学園からは、会場を無償で提供いただきました。また、林氏と青木さんはボランティアで出演されました。当基金の会員の方々にも当日、お手伝いをしていただきました。地元商店街にはポスターの掲示等で御協力をいただきました。この場を借りて関係者の皆様に深く御礼を申し上げます。

▽「私」だが「公」

「リンボウ先生」こと林望氏は「私の景観論」という演題で、1時間にわたって講演しました。英国事情に詳しい林氏はまず、「日本では古いことが、汚いあるいは忘れられ価値がないことと同義語になっている。これに対し、英国では古いものほど美しいとされている」と日英の違いを指摘しました。

そして、林氏は講演の最後を「英国では私有地の中を人が通れるようにしなければいけなくなっている。「私」だが「公」なのだ。100年前の風景を眺めることができる。日本では考えられない。日々の目前の景色がやがて歴史になる。エクセントリックなものの集積ではない。日本が醜くなっているのは、大きな意識の問題が宿っている」と締めくくりました。

▽北鎌倉の風を熱唱—青木由有子さんのソロコンサート—

青木さんのコンサートは、この講演に先立って行われました。青木さんは台峯緑地保全の願いを込めて、当基金の機関誌「北鎌倉の風」の創刊がきっかけとなって誕生した「北鎌倉の風」を含め全11曲を熱唱しました。コンサートのフィナーレの曲「ニューヨーク あ・ら・bye」は、聴衆の魂を揺さぶったのでしょう。聴衆の3割か4割の人が涙しました。

【活動報告】

2002年1月以降の、当基金の主な活動を報告します。

なだ理事長、鎌倉市長に赤道で要望

パリからも共感のメッセージ

人と自然の交わりの場である里山は、人の手入れなしには、その生態系を保持できない。「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」(なだ いなだ理事長)がトラストの対象にしている台峯緑地は、現在、枝打ちや下草刈りといった人の手入れがなされず、荒廃が進む一方だ。そこで、なだ理事長以下、「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」のメンバーが、「市道である赤道を市民の手で整備し、保全に協力したい」と1月23日、鎌倉市役所を訪れ、石渡徳一市長に「赤道整備に関する要望書」を手渡した。

要望書には「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」の台峯緑地保全運動に共感したパリ市議会議員らの「パリ市議会議員からの陳情書」と松竹の大船撮影所で活動した映画監督の山田洋次氏のメッセージも添えた。日本映画界の巨匠、故小津安二郎監督は、自然と景観に恵まれた北鎌倉に住み、北鎌倉をこよなく愛し、北鎌倉を舞台に、数多くの名作を世に送りだした。小津安二郎監督は国内だけでなく、海外にもファンが多い。「小津が眠る北鎌倉の自然と景観を保全しよう」を合い言葉に、鎌倉市民とパリ市民そして日仏映画人の連帯の輪が広がりつつある。

石渡徳一鎌倉市長殿

NPO 法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金理事長
なだ いなだ

2002年1月23日

赤道整備に関する要望書

当基金は、1998年11月に、台峯緑地をナショナル・トラストの手法で、「里山的に実質保全」しようとして発足しました。私たちの呼び掛けに対し、現在643人が会員として参加され、寄付件数は780件に達し、緑積立金は10,012,530円と1000万円を突破しました。

基金発足以来、私たちは鎌倉市及び地権者の皆様の御好意によって、毎月第3日曜日に、台峯緑地を市民の皆さんと一緒に歩かせていただいております。毎月歩くことによって、地権者の皆様の御苦勞を実感すると同時に、里山は人間が手入れをしないと、荒れ果ててしまうことを自分達の目で、実際に確認致しました。

そこで、かけがえない貴重な里山を守るため、鎌倉市が保有している台峯緑地の中の市道(赤道)を当基金が整備することを許可していただくようお願い致します。台峯緑地とともに鎌倉の三大緑地の一つである、広町緑地では、既にこうした取り組みがなされていると伺っております。御検討の程、よろしくお願い申し上げます。

バリ市議会議員からの陳情書（日本語訳）

鎌倉市長
石渡徳一殿

鎌倉に心惹かれる外国人として、私たちの多くは13世紀の寺や、ヨーロッパで高く評価されている小津の映画で馴染んだ北鎌倉の裏道のある町を見物するために、鎌倉を訪れたことがあります。周りの緑の丘の建造物や坂道の美しさに感銘させられました。ですから私どもは、鎌倉の緑地の一つである台峯の大きな部分が、既に関取った不動産会社によって、住宅地として、開発される可能性があると聞いて心を痛めております。

その開発計画に反対される東慶寺の井上禅定師が鎌倉市に出された陳情書の仏訳を読ませていただきました。老師は過去に鎌倉の自然や歴史遺産の保全の運動にかかわられ、成功なさったと伺っております。

多くの鎌倉市民の声を反映していると聞く、その陳情書を支持している「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」の精神科医、なだ いなだ氏と哲学者の石黒ひで氏の声に私どもも賛同したいと思います。

どうか、その声に耳を傾けていただけるようお願い致します。

敬具

署名

シルヴァン ガレル

バリ市議会議員（フランス映画評論家連盟副会長）

ニコル アザロ

バリ市議会議員（環境派グリーン党副会長）

ジャック フトー

バリ市議会議員（バリ市2区市長）

マニユエル ガスコワン

バリ市議会議員（環境派グリーン党幹事長）

クリストフ ナジドフスキー

バリ市議会議員（環境派グリーン党会長）

ジャン・ポール・コンブ

バリ市庁職員（映画歴史学者日本映画スペシャリスト）

アカテガニの棲む森は美しく、豊じょうだった —小網代の森を守る会との交流会 (2002.3.3) —

アカテガニの棲む谷と生き物たちのにぎわいを支える干潟が一体となった小網代の森には、美しく、豊じょうな自然が残されていた。

「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」(北鎌倉台峯トラスト)は、3月3日、「小網代の森を守る会」(代表 仲沢イネ子 <http://www.asahi-net.or.jp/~JD9H-NMMT/>)の案内で、小網代の森を歩いた。これは2001年度の活動計画に掲げた「他の自然保護団体との交流」の実践で、自然保護運動の先駆者から、さまざまなことを学び、北鎌倉台峯トラストの運動を発展、拡大し、最終的な目標である「台峯の里山的実質保全」を達成する狙いがあった。



鎌倉市を離れた他の自然保護団体との本格的な交流は、今回が初めてだ。「小網代の森を守る会」にお願いしたのは第1に、当基金の望月眞樹理事と今回、小網代の森を案内していただいた「小網代の森を守る会」のスタッフ、宮本美織さんと面識があったこと。第2に昨年10月19日から21日まで、大分県臼杵市で開催された第19回ナショナル・トラスト全国大会で、展示物など「小網代の森を守る会」の広報の仕方に非常に学ぶべきものがあったからだ。

小網代の森は、三浦半島の先端部分に位置している。森、小川、湿原、雑木林、干潟が一体となった関東地方で、唯一の「完結した集水域生態系」が残されている。京浜急行三崎口からは、徒歩で25分の距離にある。面積は約100ヘクタール。台峯の約4倍の広さだ。小網代の森の中は、湿地をベースした谷戸の風景が広がり、台峯とよく似ている。1980年代半ば、ゴルフ場建設計画が持ち上がっのを機に、「小網代の森を守る会」が発足した。小網代の森の入り口で、宮本美織さんと浪本晴美さんが私たちを出迎えてくれた。その後、仲沢イネ子さんら3人が加わった。

小網代の森を有名にしたのはなんといってもアカテガニの存在だ。「森で暮すアカテガニも一生に1回は海の中で暮さねばなりません。それは、誕生の瞬間からしばらくの間。したがって、親のカニはお腹いっぱい卵を抱え、真夏の大潮の晩、満潮の時刻に森から海へ降りています。母カニは水の中に入り、懸命にお腹をふるわせてお産をします。これが「放仔」です。親のお腹から海に放たれた瞬間、卵は孵化してソエアと呼ばれる幼生に変身します」(「小網代の森フィールドだより」より)

宮本美織さんの説明によると、私たちは神奈川県が小網代の森の大部分を買収したとばかりに思っていたが、実際に買収したのはわずか0.45ヘクタール。しかし、このことが強力な政治的なメッセージになった。つまり、神奈川県の実質保全の姿勢が明確に伝わり、地権者はさらなる買収を期待するものと、逆に身構えるものに分かれた。

「小網代の森を守る会」の運動の進め方は「地権者との交渉は神奈川県がやり、われわれはタッチしない。森の買取保全是「かながわトラストみどり財団」に任せる。難しいことは避ける。踏み込むとどろどろになる。要は森のにとっていいことをそれぞれが役割分担してやる」(宮本さん)が基本。具体的には「小網代の森を守る会」への会員募集と「かながわトラストみどり財団」への会員募集の手助けで、「小網代の森を守る会」の会員になると年5回の自然観察会と海岸清掃への案内と年4回発行される「小網代つうしん」が送られてくる。

仲沢イネ子さんに道すがら、いろいろなことを伺ったが、やはり地権者との関係に非常に神経を使っていることがよく分かった。小網代の森は、京浜急行と個人の大地主が、それぞれ50%近く所有し、残りを約100人の個人地主の方々が、所有しているという。仲沢代表は「こんにちわ」と小網代の森に沿った畑で農作業をしていた個人地主に丁寧に、挨拶をかわしていたのが印象的だった。

今回の交流会には、北鎌倉台峯トラストだけでなく、一般の方の参加も歓迎した。その結果、なんと予想をはるかに上回る38人が、参加した。構成は「なだ いなだと北鎌倉周辺をあるく」の常連さん、「みどりのサポーター」の「フレンズ オブ カマクラ 台峯」のメンバー、台峯とともに鎌倉の3大緑地の一つである広町をナショナル・トラストの手法で保全しようとしている「鎌倉の自然を守る会」のメンバーだ。メーリングリストの掲示を見て、参加した市民もいた。つくづく時代を感じさせる。



小網代の森

今回の交流を機に、「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」と「小網代の森を守る会」は、ホームページを相互リンクすることになった。小さな交流を積み重ねることによって、双方の運動にいい意味での相乗効果がもたらされ、お互いの目的が達成されることを祈りたい。

(文責 広報担当理事 野口 稔)



小網代の森の干潟での参加者記念撮影



緑債発行を鎌倉市長に提案

NPO法人「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」のなだいなだ理事長は、4月9日午前、石渡徳一市長に、台峯の緑地保全のための資金源として、緑債の発行を提案しました。席上、なだ理事長は「緑地保全に関する市民の反応が直接分かる。できるだけ早く実現してほしい」と要望。これに対し、石渡市長は「(緑地保全を担当する)専門のセクションも新設した。検討したい」と検討を約束しました。

また、この席上で、石渡市長は台峯緑地保全についての市の最終判断を夏をメドにまとめたいと明言しました。この後、なだ理事長はメディアセンターを訪れ、プレス向けに緑債について、説明しました。

提案の内容は以下の通りです。

鎌倉市長 石渡徳一殿



市長に要望するなだ理事長

2002年4月9日

特定非営利活動法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金
理事長 なだ いなだ

住民参加型鎌倉市債の発行についての提案

昨年5月31日付で、私たちは竹内謙前市長に対して、鎌倉市町づくり条例にもとづく意見書を提出いたしました。その中でわたしたちが保全したいと考えている台峯緑地は、鎌倉に残された最後の自然ともいえるべきものであること、地権者の中には相続税の対策などでやむを得ず開発計画に参画されている方もおられること、保全のための対策としては、鎌倉市が官僚的にならずに誠意を持ち個々の地権者の事情に即した対応が必要であることを申し上げました。

また、地権者に対する補償金の財源としては、市内の自然保護団体や一般市民を対象とした「緑債」のような市債の発行を提案いたしました。

わたしたちは、その後も引き続きこの「緑債」の実現の可能性を求めて、市役所の企画財政課や神奈川県各市町村課理財班にお伺いし検討した結果、国の方針としても「住民参加型ミニ市場公募債(仮称)」という形で奨励されているという事実を知りました。既に前例として群馬県で今年の3月に「県民参加型「愛県債」」が発行され、大成功だったとのことであります。

わたしたちは、このような背景のもとで改めて、台峯緑地保全のための資金源として「緑債」の発行を提案します。金融機関からの借入金に依存するよりも、市にとっては財政上の負担がずっと軽減されるだけでなく、古都鎌倉の緑を守るという市民意識の高揚にも大いに役立つのではないのでしょうか。

この提案が実現されることを心から期待します。

■「市民参加型かまくらみどり債」(仮称) 発行促進の提案 (6月17日)

群馬県での実例を調べるなどして、再要望書を石渡市長に提出しました。

【2002 年度活動計画】

- 1 会報「北鎌倉だより」(年2回、6月と12月)と北鎌倉だより Web 版発行(随時)
- 2 機関誌「北鎌倉の風」第4号の発行(今秋)
- 3 特別企画「第2回講演&チャリティ・コンサート 台峯の命の叫び」(6月2日)
- 4 第4回北鎌倉・台峯トラストの集い(11月から12月上旬を予定)
- 5 「なだ いなだと北鎌倉周辺をあるく」(毎月第3日曜日午前9時から正午まで)
- 6 円覚寺前での街頭募金と会員の勧誘活動(4、5、6月に「なだ いなだと北鎌倉周辺をあるく」と同時に行う。秋にも行う予定)
- 7 神奈川県、鎌倉市の折衝
- 8 鎌倉風致保存会の山手入れに参加し、台峯の赤道(市道)の整備のノウハウを学ぶ。また、赤道の整備は「なだ いなだと北鎌倉周辺をあるく」の後、希望者を募って、鎌倉自主探鳥会のメンバーのアドバイスを受けて、準備が整い次第実施に移す。
- 9 鎌倉市長に「住民参加型鎌倉市債の発行」について提案する(4月9日)
- 10 トラスト対象の隣接地の買収を検討する。
- 11 鎌倉市公園緑地課、公園協会、ボランティア団体の3者協議会の場で、中央公園の今後のあり方を協議すること、さらには協議対象に拡大地域を含めるよう関係者に働きかける。

【2001 年度会計報告】

(詳細な会計報告を必用とされる方は、事務局にお問い合わせください)

〈経常収入〉	2,836,723 円
〈経常支出〉	1,453,451 円
〈緑地保全積立金〉	10,506,110 円
〈正・普通会員数〉	455 人
〈家族会員数〉	170 人
〈団体会員数〉	9 人



【2002 年度予算】

〈経常収入〉	3,260,000 円
〈経常支出〉	1,899,800 円

*会計報告と予算の経常収支の差額は、経常収支外の項目〈緑地保全積立金〉などに組み込まれています。

『北鎌倉文学散歩』

光照寺

和泉 あき 北鎌倉の景観を後世に伝える基金理事(相模女子大学名誉教授)

北鎌倉駅で電車を降りるとあの長いホームをまっすぐ進んで、そのまま円覚寺、東慶寺方面へ向かう観光客が大部分のようですが、たまには反対に向かってみます。小坂郵便局の傍らの信号を渡って少し登ると、光照寺というお寺の前に出ます。私は山歩きの帰途、逆の方から門前を通ることが多いのですが、いつか珍しく観光客らしい二人連れが、「あ、このお寺も「ときむね(時宗)」なんだ」と話していました。無理もない間違いなのですが、ここは「時宗(じしゅう)」のお寺です。

時宗は一遍上人が始めた鎌倉新佛教の一派で、国中を廻って念佛を流布して歩いたので、「踊念佛」とか「遊行聖」と言われました。京都、東山の庵に建礼門院出家の寺と伝えられる長楽寺があって、そこには歴代の遊行上人の像が祀ってあります。なぜここに祀られることになったのかは、ややこしい来歴があるので省略しますが、これらの木像は遊行の聖らしくみな遅しくて圧倒されます。

現在の時宗の本山は藤沢にある遊行寺(正式には清浄光寺)で、この墓地には中世最大の説話の一つ、小栗判官と照手姫の墓があります。今も遊行寺では二人にまつわる催しが毎年行われています。いずれにせよ、鎌倉五山のように幕府と関わりが深く、手厚く庇護されてきた禅宗寺院とは違い、時宗は本来的に庶民の流派で、七切り通しの外、当時は鎌倉の周縁だったこの地にひっそりと佇んできたのでしょう。

その故もあるのか、このお寺はまた隠れキリシタンとも関わりがあったといえます。山門の梁に十字架を文様化した紋が刻まれているからです。鎌倉と隠れキリシタンとは意外な取り合わせのようですが、でも隠れキリシタンの伝承は東北、岩手県や秋田県にもあるのですから、鎌倉にあっても不思議はではないのかもしれない。

ここまで書いたところで、家から近いことだし、もう一度クルス門を実見して来ようと出かけて来ました。日曜なのに雪柳、射干が咲き乱れる境内はひっそりと静まり、これも盛りの牡丹の手入れをされていた奥様が迎えて下さり、本堂裏の藤棚へ誘って下さいました。何とその正面に、無惨に切り倒された高野台の開発現場が見渡せるのでした。

毎日眺めては嘆いていると言われる奥様は、私たちの「北鎌倉の景観を後世に伝える基金」の会員でいらっしゃる由、私は不明を恥ずかしく思いました。数種類ある「一遍絵詞」の一つに、布教を志して鎌倉へ入ろうとした一遍の一行が、幕府の武士に阻止される場面があって、それは今の北鎌倉駅の辺り、まだ円覚寺もなかった当時の話でした。一遍の「鎌倉法難」というのだと教えていただきました。

ひっそりと美しい庶民の寺のたたずまいでした。



光照寺から見た宅地開発工事後の高野台 (9)



時宗(じしゅう) 光照寺

談話室 (会員欄)

夢は娘と一緒に森の手入れのボランティア

榎本 晶夫 (えのもと あきお) 1955年東京都大田区池上に生まれ。鎌倉市 台に1997年より暮らす。

職業 会社員

榎本さん父娘



中学2年生の夏、金沢文庫から、天園ハイキングコースを北鎌倉・円覚寺まで歩いて以来、鎌倉の様々な場所を歩いてきました。厚木市から、鎌倉・台に転居して、この秋で5年になります。永く鎌倉に暮らされている方に比べるとまだ、新しい住民ということになる訳ですが、ハイキングコースの脇のゴルフ場もまだひとつだけで、散在が池の周りの住宅も今ほどは多くはなかった30数年前の鎌倉を知っていました。

▼ウェブサイトを通して「台峯」を知る

鎌倉に越して、嬉しかったことは、その頃に似た景色が、山崎小学校の奥に残されていたことでした。当時、1歳9ヶ月だった娘の成長にとっても、良い所に移り住むことができたことをよろこんでいました。あるウェブサイトを通して、山崎小学校の奥に広がる緑の森が「台峯」であること、台峯・広町は、鎌倉の2大緑地と呼ばれていて、共に開発の計画があることを知ったのは、このナショナルトラストが設立されて間もなくのことであったと記憶しています。

私の好きな景色が壊されてしまう計画を知り、思い出したことは、昭和30年代の前半、東京大田区の家近くの、少しだけ残されていた、虫やザリガニを採って遊んだ小さな森や水の流れが、或る日、倒され、埋められてしまった時の何とも言えぬ、遣りきれない気持ちでした。今、考えると高度成長期に向かっていった時代に、ほんの僅かに自然が残されていた不思議な場所でした。その場所を失った時の寂しさを多分、私はどこかに抱えながら生きているのではないかと思います。

私の好きな、そして、私の娘も好きな台峯失いたくない。台峯を壊す計画を静観したくはない、その気持ちを具体的に表すことなく台峯が壊されてしまったなら、私は、私が抱えた寂しさを娘に与え、私の気持ちに大きなダメージが与えられることは間違いないと思いました。

▼ある種、気詰まりな思い

台峯の保全に向けて幾つかの取り組みが行われていることや、近くに地権者の方がいらしたり、永く住まわれている方の間でもこの開発という破壊の計画に対して、幾つかの意見があることも知りました。永く住まわれていて、自然環境よりも更に便利な

住環境を願う方にとっては、新しく越して来たばかりの者に余計なことは言われたくないと思いは当然の感情ですし、「お前の住んでいる所だってももとは山だったんだよ」ということで、そんな所に住みながら「緑を守れ」などと言うのは矛盾していると言われるのだろうかなどと考えると、「新参者」には口を出し難い部分や、行動するにも「覚悟」を必要とさせる反対運動にある種、気詰まりな思いがありました。

▼大船の撮影所一失ってしまった大切なモノー

台峯のことから少し離れますが、私が、鎌倉に越して既に失ってしまった大切なモノがあります。大船の撮影所です。シネマワールドが閉鎖された時は、何も感じませんでした。鎌倉女子大学に松竹大船撮影所が売り払われるという報道に驚きました。撮影所が閉鎖される前の年の秋、労働組合のデモを見ました。客観的という名を借りて、物事を冷徹に捉えることに慣れた人には、もうどうしようもできない段階での無駄な示威行動ということになるのであろうけれど、私の傍にいらした撮影所に近い飲食店の老夫婦の「映画会社が撮影所売っちゃうなんてねえ」「気の毒だね」という会話が忘れられません。

今は、跡形もなくなってしまいましたが、閉鎖された年の4月に組合が行った見学会に行くことができました。明渡しは確か6月でしたが、撮影所を案内して下さった組合の方の身に付けられた赤地に白抜きで記された「松竹大船調」のステッカーが表していた仕事に対する誇りと、明るく諦めていない姿に感動を覚えました。それと同時に、日本の映画文化を創造する仕事の間を容易く奪い取ることで、カネの問題を措きぬけようとする経営者の判断に憤りを覚えました。

昨年の11月に、家族共々、この基金の会員になりましたが、この撮影所の見学会に参加し、そこで自らの仕事に対する誇りと、文化の担い手としての責任を貫くために、行動し、自ら築いた文化を破壊しようとする経営と闘う組合の方の話を聞いたことも今、思うと私が台峯を皆さんと一緒に歩くようになった動機の一つではないかと思います。

▽声高な反対ではない活動に共感

政治や行政、企業、大きなチカラをもつモノは、この世に存在する命、歴史が築いた文化に対して謙虚であるべきではないか、そうでないから、様々な意味で世の中が荒れるのではないかと此の頃よく思うことがあります。映画業界が元気な時代は既に終わったのだから仕方がない、別に里山がひとつ無くなって他にも自然はあるからいいじゃないか、という風にはどうしても考えられません。台峯を初めて歩いた時、その気持ちは更に明確になりました。

大学生の頃、なだ先生が書かれたものを幾度か読んだこともあり、昨年6月、北鎌倉女子学園で行われたシンポジウムに参加して、声高に開発反対を叫ぶことからではなく、台峯を歩くという行動を通して、台峯に棲息している数多くの命の存在を様々な人々に知ってもらうことにより、台峯の自然を守ることの大切な意味を伝えたい、というお話をうかがい、その活動の在り方に共感を覚えました。「歩く会」には、昨年8月から、毎月、参加しています。

初めて参加した「歩く会」は、高野台の大本組の開発現場を廻って、台峯に入る変則コースでした。6月のシンポジウムの時、この開発に関する質問に「前の市長が許可しことなので(どうしようもない)」と前市長が答えていましたが、文化財調査のため工事は中断されていたものの、数ヶ月の間に、切り崩され、削り取られて変えられて

しまった山の「どうしようもない」その姿に、複雑な思いを抱きました。

▽これなら子供も連れていける

初めて歩いた台峯には、想像していた以上に自然豊かな世界が広がっていました。そこに生きる様々な動植物、倉久保の谷戸に広がるミソソバの生い茂る湿地、雨が少なく、とても暑かった去年の夏に枯れることなく染み出していた「しほり水」など、その存在に素直な驚きを覚えました。

そしてその時もうひとつ感じたことは、様々な皆さんが、それぞれのスタンスで、参加されているこの「歩く会」の居心地のよさでした。これなら子供も連れていけるなどと思い、10月には、家族で参加しました。特に娘は台峯の山歩きが楽しかったようです。また、先生や参加者の皆さんから声を掛けてもらったことが嬉しかったらしく、「なだ先生の山歩きの仲間になりたい」と話していたこともあり、彼女も会員になりました。

何度か台峯を歩き、久保さんのお話を聞き、少しずつ台峯のことを知っていく中で、数多くの命が棲息している環境が残されている一方で、人の手が入らなくなってきた里山の荒れてしまった姿も見える様になりましたが、それは自然の中での変化であり、開発という破壊が行われない限り、人が手入れをすることで回復可能なのではないかと考えています。

▽これも子供の声がする鎌倉

私たちに様々な恵みを与えてくれる緑の森とそこに棲息する様々な命と共に生きることより得られる幸福感を失いたくはありません。「歩く会」も最近は、参加される方が多くなり、初めて参加される方も毎回必ずいらっしゃいます。このナショナルトラストや台峯のことは確実に、多くの方に、広がっているのではないかと 생각합니다。

しかし、最近、石渡市長が台峯の開発について「夏までに結論を出す」と明言したというお話を聞きました。3月の歩く会の時、倉久保の谷戸の湿原で、珍しく数多くの親子連れが、セリを採っていました。子供の声が賑やかに、谷戸に響いていました。

これも「子供の声がする鎌倉」だと思っています。大切なことではないでしょうか、「夏までに結論」の話に少し不安を覚えながらも、私たちの望んでいることは決して在り得ない事ではないとも考えています。台峯の命が在りのままに残され、娘と一緒に森の手入れのボランティアを行うことが夢と消えず、これからも皆さんといつまでも一緒に歩くことができるという結論を願い求めて参りたいと考えています。



台峯上空を飛翔するノスリ



高野台の開発現場

伝言板

◇機関誌「北鎌倉の風」で台峯体験を！

伝えたい、かけがえのない生き物たちの宝庫を
各500円でお分けしています。

見る！



読む！



【人事】

5月26日の理事会と通常総会でなだ理事長以下、前理事全員の理事の再任が了承されました。

【年会費納入方法の変更】

今年度から3月と9月の年2回に分けて納入していただくことになりました。

【定例行事】

「なだ いなだと北鎌倉周辺をあるく」

毎月第3日曜日午前9時に北鎌倉・東慶寺手前の山ノ内公会堂に集合、主に台峯から鎌倉中央公園まで、鎌倉自主探鳥会のメンバーの案内で歩きます。

解散は正午頃。雨の日はフリートーク。

【ホームページ】

URL:<http://www.kitakamakura-trust.org/>

新規会員募集中！

一般年会費 2000円です。詳細は事務局にお問い合わせ下さい。

緑と古刹が織り成す安らぎの街なみ保全に力を貸して下さい

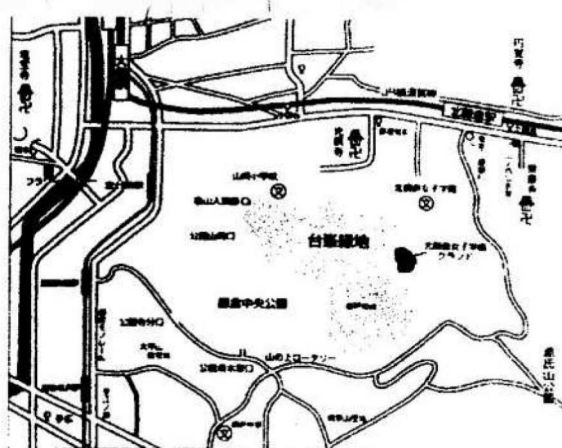
発行日…2002年7月7日

発行者…NPO 法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局…〒247-0062 鎌倉市山ノ内1045

TEL/FAX 0467-22-4693

(12)



台峯地図